

「ぼくのかあちゃんはおにばばです」で始まる物語。主人公のしげおが優しいかあちゃんになってもらいたいと、特製オムライスをつくるために頑張ります。登場人物のコミカルな様子が笑いを誘います。全国の書店で注文ができるほか、インターネットでも購入可能。おおづ図書館でも貸し出しを行っています。



Public relations
OZU TOWN



「夢にむかって進む『かあちゃん』を子どもたちに見せたい」

すぎはら 杉原ヤスさんと子どもたち（美咲野）

高知県の「日高村絵本コンクール」でデビュー作品「オムライスかあちゃん」が見事最優秀賞に輝いた絵本作家、杉原ヤスさんをクローズアップする。

書店に勤務していた約10年前。絵本の読み聞かせに参加する子どもたちの輝く瞳を見て、絵本の世界に魅了され、「いつか私も子どもたちを笑顔にできるような絵本を作りたい」という漠然とした夢ができたという杉原さん。

夢の転機は2016年の春。家族に「絵本作家になりたい」と宣言し、家族の協力を得ながら受賞作品「オムライスかあちゃん」を作り上げた。

「私は美術の専門的な勉強をしてきたわけではないので、最優秀賞は驚きました。他の作家さんと比べてしまうとどうしても勉強不足を感じてしまうので」と口にするが、杉原さんの描いた絵は温かみを感じる色合いと表情で登場人物の魅力が十二分に伝えている。

「私の強みがあるとすればこの子たちです。子ども独特の生の意見をくれるので、大人のカチカチ脳な私にはとても勉強になります」と視線の先には4人の子どもたち。上から8歳、8歳、5歳、3歳。やんちゃ盛りだ。

「子どもは残酷なほど正直です。文章から教訓めいた雰囲気を感じると、途端に白けたりする。単純に面白くてページが進む、おはなしの世界にすっかり入り込めるような絵本を作ることが目標です」と語る。

少子化が叫ばれる中、児童書である絵本は少しづつ市場が小さくなっている。子どもたちの空想を邪魔しないために、一語一句、言葉を選びぬいて完成するのが絵本。良さを広め、たくさんの人に笑ってほしい。そして、夢にむかって進む「かあちゃん」を子どもたちに見せたい。

ここの声

▼絵本などに使う子どもに伝わる文章は身近な体験・表現に置き換えて、無駄なものを取り除いて作るそうです。▼その点を気をつけてみると名作絵本がもっとと深く読めること。▼広報を作る上でも非常に勉強になりました。▼テンポが良く誰かに読み聞かせしたくなる絵本でした(MDHO)。

▼広報担当になり本を読む機会が増えました。▼最近ではスマホで欲しい情報が手に入るのに、本離れしてしまっています。▼本を読むことで著者の思いや背景など、得られる事の多さを感じます。▼それと同時に知らないことの多さを自覚します。▼めげずに急がば回れ！でコツコツ積み重ねたいです。(UE)

からいもくん便り

大津町総合情報メール
携帯電話やパソコンのメール機能を活用して、生活に役立つさまざまな情報をお知らせするシステムです。



登録方法: ozutown@gw.ansin-anzen.jpに空メールを送信してください(スマートフォンの場合は件名に任意の1文字「あ」などを入力して送信)。

UD FONT
易やすく読みまちがえにくい
コンピューターフォント
を採用しています。

これまでもこれからも

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報 おおづ

9

SEPTEMBER 2018



広報が読める
スマホアプリ
マチイロ

今月のみどころ

巻頭記事

農業のみらい 未来の農業

特集 認知症を知る

～今私たちにできること～